

共通語彙基盤

避難施設
情報交換パッケージ (IEP)
(ドラフト v.0.2)

平成26年9月30日

目 次

1. 本 IEP の目的	1
2. データ項目	3
3. IEP 活用の流れ	17
3. 1 新規システム構築の場合	17
3. 2 既存システムの場合	18
3. 3 既存の報告様式との関係	18
4. コード等	20
4. 1 コード、データ	20
4. 2 グローバル対応	20
5. サンプル	21

図 表 目 次

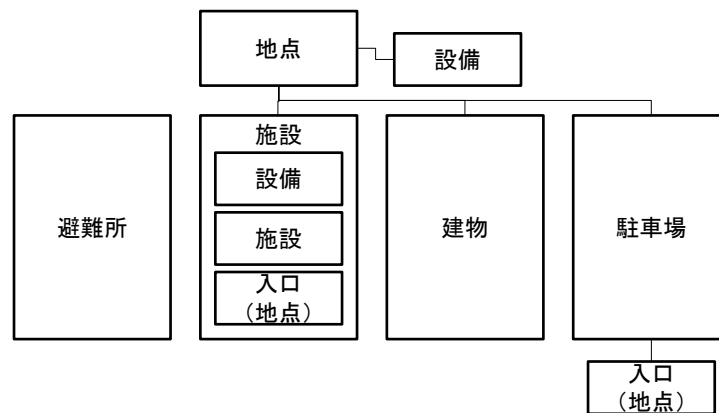
図 1 施設関連のデータ項目	1
図 2 IEP を介したデータの関係	2
図 3 主なデータ項目	4
図 4 詳細データ項目	15
図 5 英語対応、schema.org 対応（避難施設部分是对应部分無し）	16
図 6 新規システムでの導入イメージ	17
図 7 既存システムでの導入イメージ	18
図 8 サンプル	25

1. 本 IEP の目的

避難施設とは、災害等の緊急時に避難するための施設等である。避難所、避難場所などがある。

避難施設は、学校等の一般施設を災害時に活用する機会が多い。そのため、一般の施設情報を拡張して避難所情報を整理することで、住所等の基礎的情報を重複管理することなく情報を管理することが求められる。また、避難は行政区域を越えて広域で行われることも多い。更に避難所の状況を共有するための報告情報等のデータ構造の整理も求められている。

そこで、避難施設情報を交換する時の共通的な交換方法が必要となる。施設は、特定地点に設置されているものなので、地点情報の情報交換パッケージを拡張して整備している。また、施設は建物情報を持つ場合もあり、その場合には建物情報も拡張できる等、様々な情報交換パッケージの組み合わせで複合的な施設も表現することが可能である。



上記の情報から必要に応じて取捨選択して目的地点を表す。
必要に応じて、更に語彙を追加することも可能

図 1 施設関連のデータ項目

既存のシステムのデータ構造を変更する必要はなく、相手先にあわせてデータ変換する時に参照すべきデータ一覧となる。

本 IEP (Information Exchange Package:情報交換パッケージ) は、避難施設の情報を公開、交換、管理するために整備されたものである。実装に当たっては、共通語彙基盤の語彙セットを本 IEP と合わせて参照されたい。

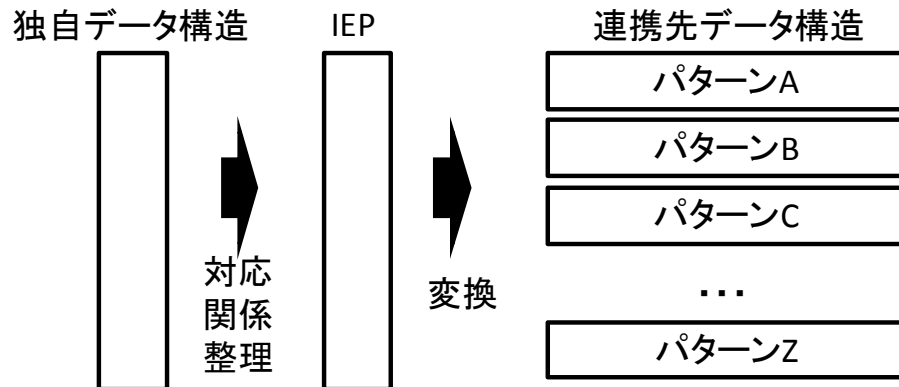


図 2 IEP を介したデータの連係

IEP 活用のメリット

- ・組織内外の多くのシステムと情報交換がしやすくなる
(調整やインターフェース改造が不要)
- ・情報項目に定義があるので、誰が見ても誤解なく情報が活用できる
- ・新規システム開発では、データ設計が標準的なデータでできる

2. データ項目

データ項目と記述イメージは、以下の通りである。灰色項目はその下に記述された項目を組み合わせることで、アプリケーションで自動生成できる項目である。ただし、構造化した住所等を使用しないで、直接記入することも可能である。

データ項目名	説明	備考
名称	地点の正式名称を記載する。	
通称	地点が通称を持つ場合に記載する。	
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。「東京都千代田区霞が関 1-3-1」	連絡先詳細項目を登録することで、自動生成する。 住所のデータ構造の詳細は住所 IEP を参照
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	
要約	一覧などに載せる簡易な説明を 100 文字以内で記載する。	
説明	地点に説明がある場合には記載する。	
参照	地点を説明する情報がある場合には、その参照先 url 等を記載する。	
画像	画像がある場合には、参照先 url 等を記載する。	
連絡先	地点に関する連絡先がある場合には、その内容を記載する	連絡先詳細項目を登録することで、自動生成する。
建物 敷地面積	建物の敷地面積を記載。	
建物 延べ面積	建物の延べ面積を記載。	
建物 地上階数	建物の地上階数を記載。	
建物 構造	建物の構造を記載。	「木造」、「鉄骨造」、「鉄筋コンクリート造」、「鉄筋鉄骨コンクリート造」、「その他」
種別	避難施設の種別を記載。	「緊急避難場所」、「広域避難場所」、「指定避難所」、「福祉避難所」、「緊急避難所」、「避難場所」、「一時滞在施設」、「帰宅支援施設」、「給水所」、「救護所」、「備蓄倉庫」、「ヘリポート」、「支援拠点」、「入浴等施設」
災害種別	災害種別を記載。	「洪水」、「崖崩れ、土石流及び地滑り」、「高潮」、「地震」、「津波」、「大規模な火事」、

		「内水氾濫」、「火山現象」
対象地区	避難施設に対象地区がある場合には記載。	
管理者	避難施設の管理者を記載。	連絡先詳細項目を登録することで、自動生成する。
大型車両アクセス可否	4 トン車以上の大型車両のアクセスの可否を記載。	「可」、「現状不可」、「不可」
給食設備	給食等の設備の有無を記載。	「有」「無」
民間協定施設	民間協定施設の場合に記載。	「民間協定施設」「その他協定施設」
屋内収容可能人数	建物内への収容可能人数を記載。	
屋外収容可能人数	テント等、建物外での収容可能人数を記載。	
備考	避難施設での特記事項を記載。	
関連施設	給水所等の関連施設がある場合に記載する。	「給水所」、「救護所」、「備蓄倉庫」、「ヘリポート」、「支援拠点」、「入浴等施設」
避難所周辺状況	建物安全、人命救助、延焼、土砂崩れ、ライフライン、道路状況、建物確認について記載。	
避難所開設状況	報告日時、報告者、開設状況、開設日時、閉鎖日時、屋内避難世帯数、屋外避難世帯数、支援対象世帯数、屋内避難者数、屋外避難者数、支援対象人数を記載。	
避難所管理状況	運営会議、運営組織の有無を記載	
避難所状況	食料、飲料水、衣類、建物、衛生、医療、安全などの状況を記載。	
公衆衛生情報	高齢者、妊婦、乳児などの状況を記載。	
電源状況	電源の状況を記載	
通信状況	通信の状況を記載	

図 3 主なデータ項目

アプリケーションでは、図3のデータが利用者に見える。建物情報や避難所情報も付加可能である。

データベースでデータを管理する場合の IMI 対応は以下のとおりである。

ic:地点					
	ic:地点_ID				
		ic:ID_体系			コードの体系を記載する。
			ic:ID体系_名称		ID に名称がある場合に記載。
			ic:ID体系_ID		ID に番号などが付与されているとき記載。
			ic:ID体系_発行者		ID を発行する組織名を記載。
			ic:ID体系_発行者-ID		
			ic:ID体系_バージョン		ここで使用する ID のバージョンを記載。
			ic:ID体系_URI		ID に URI がある場合に記載。
		ic:ID_値			ID の実際の値を記載。この部分が一般には表示される。
	ic:地点_名称				地点の正式名称を記載する。
	ic:地点_通称				地点が通称を持つ場合に記載する。
	ic:場所_地理識別肢				緯度、経度、高度または深さ、座標参照系の順に区切り文字なしに記載。スラッシュ「/」で終わる。 地点が、面や線などを表す場合には、代表地点を記載。
	ic:住所_種別				「代表地点」等、住所項目に解説が必要な時に使用する。
	ic:住所_表記				都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。
	ic:住所_表記 (定型)				
		ic:定型住所_国			国名を記載。
		ic:定型住所_国-コード			国名コード (2文字) を記載。
		ic:定型住所_都道府県			都道府県名を記載。「東京都」「神奈川県」のように、都道府県まで記載。
		ic:定型住所_都道府県-コー			全国地方公共団体コード (左2桁) を記載。

		ド			
		ic:定型住所_市区町村			市町村名、および、東京都の場合は特別区名を記載。郡は、「〇〇郡〇〇村」と記入。北海道で総合振興局の記載が必要な場合には、市町村名の前に記載。
		ic:定型住所_区			全国地方公共団体コード(右4桁)を記載。
		ic:定型住所_市区町村-コード			政令指定都市の場合は、区を記載。
		ic:定型住所_町名			町名、大字等、文字での住所記載部分を記載。
		ic:定型住所_丁目			半角数字
		ic:定型住所_番地補足			丁目以降の数字の前に、「東」「北」「浜」「甲」等の文字が付く場合には記載。
		ic:定型住所_番地			半角数字。
		ic:定型住所_号			半角数字。町名の後ろに数字が1つしかない場合はここに記載。
		ic:定型住所_号枝番			半角数字番地に枝番がある場合には記載。
		ic:定型住所_ビル名			ビルに、「新館」等の日本語補足があるときには、「〇〇ビル新館」の要に記入
		ic:定型住所_ビル番号			半角英数字
		ic:定型住所_部屋番号			半角数字
		ic:定型住所_方書			ビル名、ビル番号、部屋番号を連続して記載。
		ic:定型住所_ID			
		ic:定型住所_住所コード			住所を表すために、第三者が提供する既存のコード体系を活用する場合に使用する。
			ic:コード_体系		コードの体系を記載する。
				ic:コード種	IDに名称がある場合に記載。

			別_名称	
			ic:コード種別_ID	ID に番号などが付与されているとき記載。
			ic:コード種別_発行者	ID を発行する組織名を記載。
			ic:コード種別_発行者-ID	
			ic:コード種別_バージョン	ここで使用する ID のバージョンを記載。
			ic:コード種別_URI	ID に URI がある場合に記載。
		ic:コード_値		ID の実際の値を記載。この部分が一般には表示される。
ic:住所_郵便番号				郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。
ic:場所_地理座標				
	ic:座標_座標参照系			座標の参照系を記述する。
	ic:座標_緯度			緯度を、-90から+90で記載。「+」「-」は必ず記載。 10進表示の場合は、小数点以下6桁まで記載。 度分秒表示の場合は、秒の小数点以下1桁まで記載。
	ic:座標_経度			経度を、-180から+180で記載。「+」「-」は必ず記載。 10進表示の場合は、小数点以下6桁まで記載。 度分秒表示の場合は、秒の小数点以下1桁まで記載。
	ic:座標_測地高度			メートル単位の整数で記載。
ic:地点_要約				一覧などに載せる簡易な説明を 100 文字以内で記載する。
ic:地点_説明				地点に説明がある場合には記載する。
ic:地点_アクセス				
	ic:アクセス_			最寄地点 (駅、バス停、インターチェンジ等)

		最寄地点			
		ic:アクセス_最寄地点捕捉情報			最寄地点までの交通手段など、最寄地点の捕捉説明となる情報。鉄道の場合、「事業会社路線名」で記載。複数路線があるときには「,」区切り
		ic:アクセス_最寄地点出口情報			駅の出口名称など、最寄地点の出入口に関する補足情報
		ic:アクセス_アクセス種別			最寄地点からのアクセス手段。鉄道、バス、徒歩、など
		ic:アクセス_アクセス種別捕捉情報			バス系統や鉄道の特急・準急区分、徒歩の場合の進行方向など、アクセス手段の補足説明となる情報
		ic:アクセス_アクセス時間			最寄地点からのアクセス時間
		ic:アクセス_地図			地図
		ic:アクセス_備考			その他の補足情報。
	ic:地点_参照				地点を説明する情報がある場合には、その参照先 url 等を記載。
	ic:地点_画像				画像がある場合には、参照先 url 等を記載。
	ic:地点_連絡先				地点に関する連絡先がある場合には、その内容を記載。
		ic:連絡先_種別			コールセンター等種別をみたい場合に記載。
		ic:連絡先_名称			観光案内電話案内等、問い合わせ先の代表名称を記載。
		ic:連絡先_組織			連絡先を運営する組織名を記載。
		ic:連絡先_担当者役職			
		ic:連絡先_担当者名			
		ic:連絡先_メールアドレス			

	ic:連絡先_住所				
	ic:連絡先_送付先				
	ic:連絡先_電話番号				
	ic:連絡先_内線番号				
	ic:連絡先_FAX番号				
	ic:連絡先_携帯電話番号				
	ic:連絡先_webサイト				
	ic:連絡先_ID				
	ic:連絡先_対応言語				
ic:施設_種別				施設の種別を記載。	
ic:施設_種別 (コード)				施設の種別コードを記載。	
ic:施設_建物					
	ic:建物_敷地面積			施設が持つ敷地面積を記載。	建築確認申請内容
	ic:建物_主要用途			建物の主要用途を記載。	建築確認申請内容
	ic:建物_建築面積			建物の一階部分の面積を記載。	建築確認申請内容
	ic:建物_延べ面積			建物の延べ面積を記載。	建築確認申請内容
	ic:建物_最高の高さ			建物の最高高さをmで記載。	建築確認申請内容
	ic:建物_地上階数			建物の地上階数を記載。	建築確認申請内容
	ic:建物_地下階数			建物の地下階数を記載。	建築確認申請内容
	ic:建物_構造			建物の構造を記載。	建築確認申請

					内容
		ic:建物_竣工日			建物の竣工日を記載。 建築確認申請内容
dm:避難施設					
	dm:避難施設_種別				施設の種別を記載。 緊急避難場所、広域避難場所、指定避難所、福祉避難所、緊急避難所、避難場所、一時滞在施設、帰宅支援施設、給水所、救護所、備蓄倉庫、ヘリポート、支援拠点、入浴等施設
	dm:避難施設_種別コード				施設の種別コードを記載。
	dm:避難施設_災害種別				「洪水」、「崖崩れ、土石流及び地滑り」、「高潮」、「地震」、「津波」、「大規模な火事」、「内水氾濫」、「火山現象」
	dm:避難施設_対象地区				地区毎に避難施設を決めている場合には、対象地域を記載。
	dm:避難施設_管理担当窓口				
		ic:連絡先_名称			
		ic:連絡先_組織			
		ic:連絡先_担当者役職			
		ic:連絡先_担当者名			
		ic:連絡先_Eメールアドレス			
		ic:連絡先_電話番号			
		ic:連絡先_内線番号			
		ic:連絡先_FAX番号			
		ic:連絡先_携帯電話番号			

		ic:連絡先_ID			
	dm:避難施設_大型車両アクセス可否				4トン車以上の大型車両のアクセスの可否を記載。可、現状不可、不可。
	dm:避難施設_給食設備				給食施設の有無。
	dm:避難施設_民間等協定施設				民間等の協定施設の場合には、その旨を記載。
	dm:避難施設_屋内収容可能人数				建物内への収容可能人数を記載。
	dm:避難施設_屋外収容可能人数				テント等、建物外での収容可能人数を記載。
	dm:避難施設_備考				避難施設に関して追加情報があるとき記載。
	dm:避難施設_関連施設				給水所等の関連施設がある場合に記載する。
	dm:避難施設_避難所周辺状況				
		dm:避難所周辺状況_建物安全			以下から1つ選択記入。 「未実施」、「安全」、「要注意」、「危険」
		dm:避難所周辺状況_人命救助			以下から1つ選択記入。 「不要」、「必要」、「不明」
		dm:避難所周辺状況_延焼			以下から1つ選択記入。 「なし」、「延焼中」、「大火の危険」
		dm:避難所周辺状況_土砂崩れ			以下から1つ選択記入。 「未発見」、「あり」、「警戒中」
		dm:避難所周辺状況_ライフライン			以下から該当を選択記入。 「断水」、「停電」、「ガス停止」、「電話不通」
		dm:避難所周辺状況_道路状況			以下から1つ選択記入。 「通行可」、「渋滞」、「片側通行」、「通行不可」
		dm:避難所周辺状況_建物倒壊			以下から1つ選択記入。 「ほとんどなし」、「あり」、「不明」
	dm:避難施設_避難所開設状況				
		dm:避難所開設状況_報告日時			状況報告の実施日時

	dm:避難所開設 状況_報告者			報告者名	
	dm:避難所開設 状況_開設状況			「未開設」、「準備中」、「開設」を記載。	
	dm:避難所開設 状況_開設日時			開設日を記載。YYYY-MM-DD	
	dm:避難所開設 状況_閉鎖日時			閉鎖日もしくは閉鎖予定日を記載。YYYY-MM-DD	
	dm:避難所開設 状況_屋内避難 世帯数			建物内への収容世帯数を記載。	
	dm:避難所開設 状況_屋外避難 世帯数			テント等、建物外での収容世帯を記載。	
	dm:避難所開設 状況_支援対象 世帯数			自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な世帯数。	
	dm:避難所開設 状況_屋内避難 者数			建物内への収容人数を記載。	
	dm:避難所開設 状況_屋外避難 者数			テント等、建物外での収容人数を記載。	
	dm:避難所開設 状況_支援対象 人数			自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な人数。	
	dm:避難所開設 状況_避難者増 減見込み			以下から1つ選択記入。 「増加」、「減少」、「変化無し」	
dm:避難施設_避難所 管理状況					
	dm:避難所管理 状況_避難所運 営会議			運営会議設置の有無。	
	dm:避難所管理 状況_避難所運			運営組織厚生の有無	

		営組織			
	dm:避難施設_避難所 状況				
		dm:避難所状況 _総務			総合的な状況を記載。
		dm:避難所状況 _情報			情報について報告事項があれば記載。
		dm:避難所状況 _保健衛生（保 健）			医療状況について記載。
		dm:避難所状況 _保健衛生（衛 生）			衛生状況について記載。
		dm:避難所状況 _物資（食料）			食料の状況について記載。
		dm:避難所状況 _物資（水）			飲料水の状況について記載。
		dm:避難所状況 _物資（その 他）			物資の状況を記載。
		dm:避難所状況 _施設管理			避難所の施設の充足状況を記載。
		dm:避難所状況 _相談			避難所の相談事項を記載。
		dm:避難所状況 _災害時要援護 者対策			要援護者対策を記載。
		dm:避難所状況 _防犯			防犯など安全情報を記載。
		dm:避難所状況 _ボランティア			ボランティアの状況を記載。
		dm:避難所状況 _自衛消防			消防の状況を記載。
		dm:避難所状況 _行政担当者			参集した行政担当者名を記載。
		dm:避難所状況			参集した施設管理者を記載。

		_施設管理者			
dm:避難施設_公衆衛生状況					
		dm:公衆衛生_状況高齢者			人数を記入。
		dm:公衆衛生_妊婦			人数を記入。
		dm:公衆衛生_産婦			人数を記入。
		dm:公衆衛生_乳児			人数を記入。
		dm:公衆衛生_幼児・児童			人数を記入。
		dm:公衆衛生_障がい者			人数を記入。
		dm:公衆衛生_難病患者			人数を記入。
		dm:公衆衛生_在宅酸素療養者			人数を記入。
		dm:公衆衛生_人工透析者			人数を記入。
		dm:公衆衛生_アレルギー症患者			人数を記入。
		dm:公衆衛生_服薬者数			人数を記入。
		dm:公衆衛生_下痢			人数を記入。
		dm:公衆衛生_おう吐			人数を記入。
		dm:公衆衛生_発熱			人数を記入。
		dm:公衆衛生_咳			人数を記入。
		dm:公衆衛生_			人数を記入。

		便秘				
		dm:公衆衛生_ 食欲不振				人数を記入。
		dm:公衆衛生_ 頭痛				人数を記入。
		dm:公衆衛生_ 不眠				人数を記入。
		dm:公衆衛生_ 不安				人数を記入。
	dm:避難施設_電源情報					電源の状況を記載。
	dm:避難施設_通信状況					通信の状況を記載。

図 4 詳細データ項目

英語名は IMI の命名規則（NDR）に従い、単語の頭文字を大文字にして英単語を接続している。

また、検索エンジンでの用語の標準化している Schema.org との関係も下表に整理する。利用した Schema.org の分類は、以下の通りである。

ic:地点	Spot 英語名	Schema.org
ic:地点_ID	Identification	
ic:地点_名称	Name	Thing>name
ic:地点_通称	AlternativeName	Thing>alternateName
ic:場所_地理識別肢	LocationIdentification	
ic:住所	Address	Thing>Place>address
ic:住所_表記	FullAddressText	
ic:住所_郵便番号	PostCode	
ic:場所_地理座標	LocationGeographicCoordinate	Thing>Place>geo
ic:地点_要約	Abstract	
ic:地点_説明	Description	Thing>description
ic:地点_アクセス	Access	
ic:アクセス_地図	Map	Thing>Place>hasMap
ic:地点_参照	Reference	
ic:地点_画像	Picture	Thing>Place>photo
ic:地点_連絡先	ContactInformation	
ic:連絡先_電話番号	TelephoneNumber	Thing>Place>telephone
ic:連絡先_FAX番号	FaxNumber	Thing>Place>faxNumber
ic:地点_設備	ContainItem	
ic:施設_種別	FacilityCategory	
ic:施設_利用可能時間	ScheduleDay	Things>Place>openingHourSpecification
ic:施設_料金	ItemValue	Things>Intangible>StructuredValue>priceSpecification
ic:施設_収容人数	FacilityDistinctiveFeature	
ic:施設_入口	FacilityEntrance	
ic:施設_建物	FacilityBuilding	
ic:施設_関連施設	RelatedFacility	Things>Place>containedIn

図 5 英語対応、schema.org 対応（避難施設部分是对应部分無し）

3. IEP 活用の流れ

3. 1 新規システム構築の場合

データ設計において、本 IEP の活用を検討する。本 IEP に対応することで、インタフェースのカスタマイズを最小限に抑えることができる。

データベース内のデータを詳細項目で記録して、入出力においては利用者に合わせた形で構築する。こうすることで、高い相互運用性と使いやすいインタフェースを両立させること。

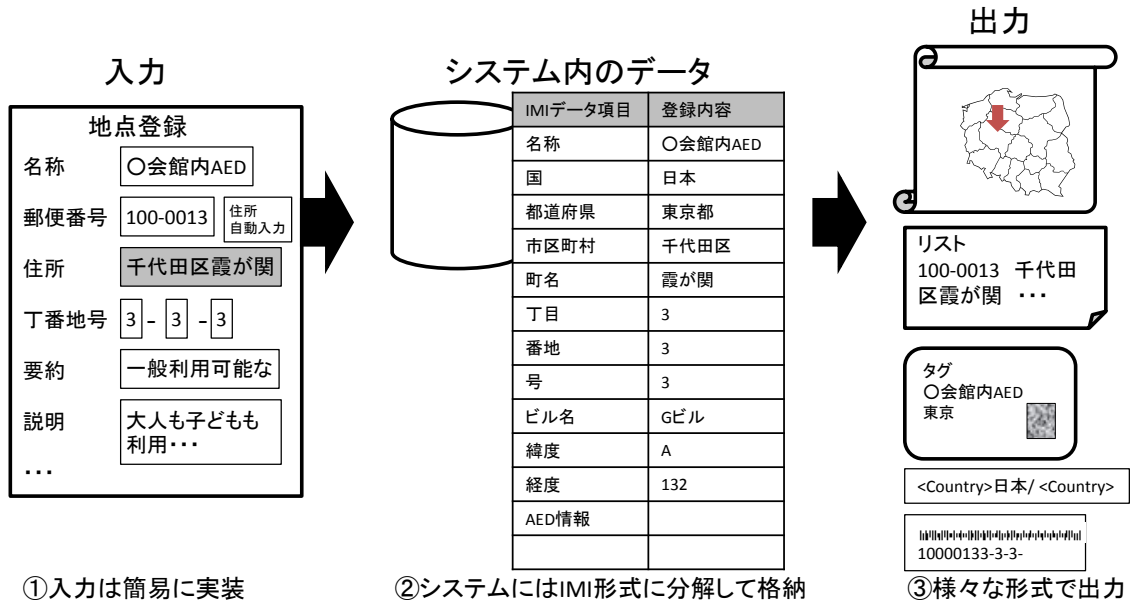


図 6 新規システムでの導入イメージ

(1) 手順 1 データ洗い出し

新システムに必要なデータ項目の洗い出しを行う。また、他システムで持っている、インポート可能なデータを洗い出す。

(2) データ確認とサブセット作成

IMI のデータ項目を見て、過不足を検査する。そして、IMI のデータのうち使用する項目のサブセットを作成する。他システムでインポート可能なデータがある場合、そのデータの対応関係を整理する。

(3) データ実装方式の検討

画面やデータベースでのデータ実装方式を検討する。郵便番号や町字コードから住所を自動入力するなどの工夫を行う。また、他システムでインポート可能なデータがある場合、そのデータの変換方法等を整理する。

3. 2 既存システムの場合

他システムとの情報交換や情報公開のためにデータのインタフェース設計（API を含む）が必要な時に、本 IEP の活用を検討する。本 IEP を活用することで、2 回目以降の変換作業の負担を大幅に減らすことができる。

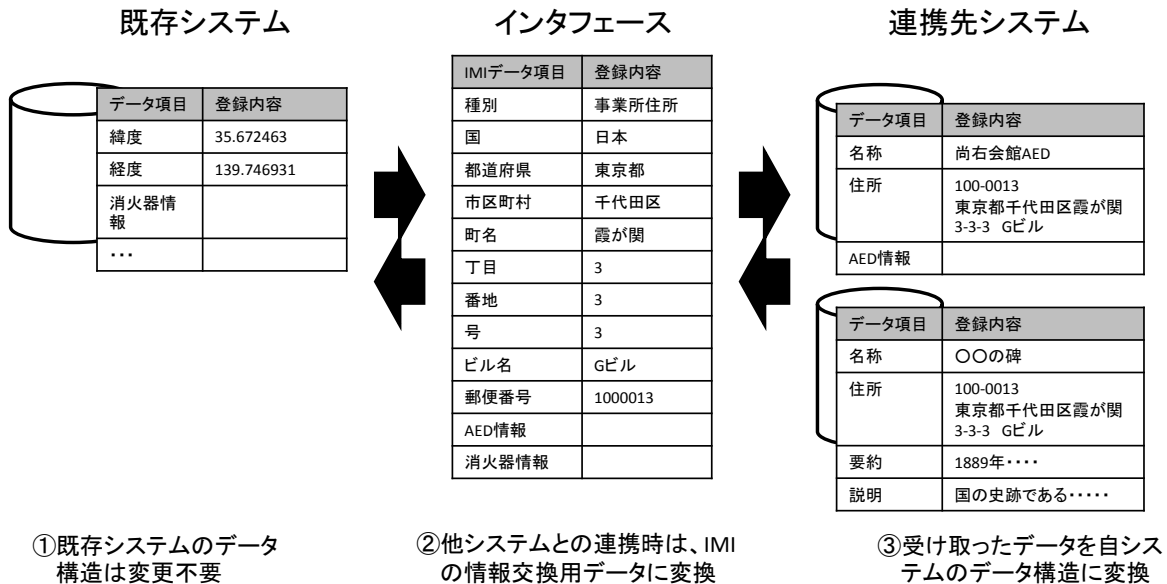


図 7 既存システムでの導入イメージ

(消火器情報、AED 情報、観光情報をマッシュアップ)

(1) データ対応表の作成

自組織内で地点に関するデータベースを持っている時には、IMI のデータ項目に対して対応表を作成する。

(2) 情報交換用データセットに変換

自組織の情報と IMI の対応表、連携先のデータと IMI の対応表を見て、情報交換方式を検討する。双方ともに情報交換用データセットに変換して送受信を行えるように準備する。

(3) IMI 形式データの受信と自組織のデータ形式への変換

データ連携先には、IMI 形式でのデータ送信を依頼する。その上で、IMI 形式で受信したデータを、自組織のデータ形式に変換する。

3. 3 既存の報告様式との関係

各自治体では、防災計画の中で避難所状況報告書を用意しているが、現在のデータ項目で、ほぼ自動的に避難所報告を行うことができる。(前日比等は計算する必要がある。)

様式 6-1

避難所 → 災害対策本部

避難所状況報告書 (初動期用)

災害対策本部 : FAX () TEL ()

避難所名 _____

開設日時	月	日	時	分	避難種別	勧告・指示・自主避難	開設日時	月	日	時	分							
第1報 (参集後すぐ)						第2報 (3時間後)						第3報 (6時間後・閉鎖)						
送信者名						送信者名						送信者名						
災害対策本部受信者名						災害対策本部受信者名						災害対策本部受信者名						
報告日時						報告日時						報告日時						
受信手段						受信手段						受信手段						
受信先番号						受信先番号						受信先番号						
人数						人数						人数						
世帯						世帯						世帯						
周辺状況	建物安全確認						建物安全確認						建物安全確認					
	人命救助						人命救助						人命救助					
	延焼						延焼						延焼					
	土砂崩れ						土砂崩れ						土砂崩れ					
	ライフライン						ライフライン						ライフライン					
道路状況						道路状況						道路状況						
建物倒壊						建物倒壊						建物倒壊						
※ 第1報においては、わかるものだけよい。						避難者数増減見込み						避難者数増減見込み						
緊急を要する事項 (具体的に箇条書き)						緊急を要する事項 (具体的に箇条書き)						緊急を要する事項 (具体的に箇条書き)						
建物の安全確認で危険と判定された時の対応 (具体的に箇条書き)						建物の安全確認で危険と判定された時の対応 (具体的に箇条書き)						建物の安全確認で危険と判定された時の対応 (具体的に箇条書き)						
参集した行政担当者						参集した行政担当者						参集した行政担当者						
参集した施設管理者						参集した施設管理者						参集した施設管理者						

様式 6-2

情報班 → 行政担当者 → 災害対策本部

避難所状況報告書 [第 報] 避難所名 _____

送信者名	災害対策本部受信者名			
報告日時	月	日	時 分	
世帯数	現在数 (A)	前日数 (B)	差引 (A-B)	
内	避難者	(※) 世帯	(※) 世帯	
	被災者	(※) 世帯	(※) 世帯	
	合計	(※) 世帯	(※) 世帯	
人数	現在数 (A)	前日数 (B)	差引 (A-B)	
	避難者	(※) 人	(※) 人	
	被災者	(※) 人	(※) 人	
合計	(※) 人	(※) 人	(※) 人	
運営状況	避難所運営会議	編成済み・未編成	地域状況	
	運営組織	編成済み・未編成	ライフライン	
			道路状況	
避難所管理責任者名				
連絡先 (h, FAX)				
連絡	対称状況			今後必要となる事項
	総務班			
	情報班			
	保健衛生班			
	物資班			
	相談班			
	災害時要援護者対策班			
	防犯班			
	自衛消防班			
	行政担当者			
施設管理者				
対処すべき、予見される事項 (水、食料の過不足/物置の過不足/風邪などの発生状況 / 避難所の生活環境/ 避難者の雰囲気 など)				

※ () には屋外避難者を記入のこと

連絡事項は自由記述になっているが、概況を集計するために簡易指標化することも考えられる。

4. コード等

4. 1 コード、データ

避難施設の表記には以下のコードが活用できる。

避難所（コードではなく一覧）

名称 : 避難施設

コード ID :

発行者 : 国土交通省 国土数値情報

発行者 ID :

バージョン :

URI（URL） : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P20.html>

4. 2 グローバル対応

海外からの訪問者や滞在者が増えていることから、多言語での対応も求められている。観光庁では「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」において、英語、中国語（簡体字）、韓国語に対応した対訳後一覧を提供している。語彙の活用において、本対訳を活用されたい。

5. サンプル

サンプル1

データ項目名	説明	サンプル
名称	地点の正式名称を記載する。	〇〇小学校
通称	地点が通称を持つ場合に記載する。	〇〇小
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。	神奈川県横浜市金沢区〇〇1-21-1
連絡先	地点に関する連絡先がある場合には、その内容を記載する	045-***-****
建物 敷地面積	建物の敷地面積を記載。	10000
建物 延べ面積	建物の延べ面積を記載。	10000
建物 地上階数	建物の地上階数を記載。	4
建物 構造	建物の構造を記載。	RC
種別	避難施設の種別を記載。	「指定避難所」
災害種別	災害種別を記載。	「崖崩れ、土石流及び地滑り」、「地震」、「大規模な火事」
対象地区	避難施設に対象地区がある場合には記載。	★★町、△△町 1-3 丁目
管理者	避難施設の管理者を記載。	045-***-****
大型車両アクセス可否	4 トン車以上の大型車両のアクセスの可否を記載。	「現状不可」
給食設備	給食等の設備の有無を記載。	「有」
民間協定施設	民間協定施設の場合に記載。	
屋内収容可能人数	建物内への収容可能人数を記載。	250
屋外収容可能人数	テント等、建物外での収容可能人数を記載。	100
備考	避難施設での特記事項を記載。	
関連施設	給水所等の関連施設がある場合に記載する。	「給水所」、「救護所」
dm:避難所周辺状況_建物安全	以下から1つ選択記入。 「未実施」、「安全」、「要注意」、「危険」	安全
dm:避難所周辺状況_人命救助	以下から1つ選択記入。 「不要」、「必要」、「不明」	不要
dm:避難所周	以下から1つ選択記入。 「なし」、「延焼中」、「大火の危険」	なし

辺状況_延焼		
dm:避難所周辺状況_土砂崩れ	以下から1つ選択記入。 「未発見」、「あり」、「警戒中」	未発見
dm:避難所周辺状況_ライフライン	以下から該当を選択記入。 「断水」、「停電」、「ガス停止」、「電話不通」	断水、停電、ガス停止
dm:避難所周辺状況_道路状況	以下から1つ選択記入。 「通行可」、「渋滞」、「片側通行」、「通行不可」	通行不可
dm:避難所周辺状況_建物倒壊	以下から1つ選択記入。 「ほとんどなし」、「あり」、「不明」	あり
dm:避難所開設状況_報告日時	状況報告の実施日時	20XX-09-21
dm:避難所開設状況_報告者	報告者名	岡本 明
dm:避難所開設状況_開設状況	「未開設」、「準備中」、「開設」を記載。	開設済
dm:避難所開設状況_開設日時	開設日を記載。YYYY-MM-DD	20XX-09-20
dm:避難所開設状況_閉鎖日時	閉鎖日もしくは閉鎖予定日を記載。YYYY-MM-DD	20XX-12-20
dm:避難所開設状況_屋内避難世帯数	建物内への収容世帯数を記載。	87
dm:避難所開設状況_屋外避難世帯数	テント等、建物外での収容世帯数を記載。	50
dm:避難所開設状況_支援対象世帯数	自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な世帯数。	100
dm:避難所開設状況_屋内避難者数	建物内への収容人数を記載。	180
dm:避難所開設状況_屋外避難者数	テント等、建物外での収容人数を記載。	100
dm:避難所開設状況_支援対象人数	自宅避難等、避難所外にいるが支援が必要な人数	200

設状況_支援 対象人数	数。	
dm:避難所開 設状況_避難 者増減見込み	以下から1つ選択記入。 「増加」、「減少」、「変化無し」	増加
dm:避難所管 理状況_避難 所運営会議	運営会議設置の有無。	有
dm:避難所管 理状況_避難 所運営組織	運営組織の有無	有
dm:避難所状 況_総務	総合的な状況を記載。	行政職員が不足している
dm:避難所状 況_情報	情報について報告事項があれば記載。	周辺の状況把握がまだできて いない
dm:避難所状 況_保健衛生 (保健)	医療状況について記載。	救護所に人が足りない
dm:避難所状 況_保健衛生 (衛生)	衛生状況について記載。	トイレがあふれている
dm:避難所状 況_物資(食 料)	食料の状況について記載。	食料が必要量の半分しかない
dm:避難所状 況_物資 (水)	飲料水の状況について記載。	飲料水はあるが、生活水が不 足
dm:避難所状 況_物資(そ の他)	物資の状況を記載。	着替えがほしい
dm:避難所状 況_施設管理	避難所の施設の充足状況を記載。	休息をとる空間は十分ある
dm:避難所状 況_相談	避難所の相談事項を記載。	家族捜索の依頼が多数
dm:避難所状 況_災害時 要援護者 対策	要援護者対策を記載。	透析が必要な患者がいる
dm:避難所状 況_防犯	防犯など安全情報を記載。	地域で空き巣があるらしい
dm:避難所状 況_ボラン ティア	ボランティアの状況を記載。	介護のボランティアがほしい
dm:避難所状	消防の状況を記載。	問題なし

況_自衛消防		
dm:避難所状況_行政担当者	参集した行政担当者名を記載。	三橋 博
dm:避難所状況_施設管理者	参集した施設管理者を記載。	田中 仁
dm:公衆衛生_高齢者	人数を記入。	25
dm:公衆衛生_妊婦	人数を記入。	2
dm:公衆衛生_産婦	人数を記入。	3
dm:公衆衛生_乳児	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_幼児・児童	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_障がい者	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_難病患者	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_在宅酸素療養者	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_人工透析者	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_アレルギー症患者	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_服薬者数	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_下痢	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_おう吐	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_発熱	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_咳	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_便秘	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_食欲不振	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_頭痛	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_不眠	人数を記入。	-
dm:公衆衛生_不安	人数を記入。	-
dm:避難施設_電源情報	電源の状況を記載。	非常電源有。明日まで燃料有
dm:避難施設_通信	通信の状況を記載。	不安定である

信状況		
	人数を記入。	
	人数を記入。	
	電源の状況を記載。	
	通信の状況を記載。	

図 8 サンプル